

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-144383

(43)Date of publication of application : 03.06.1997

(51)Int.Cl.

E04H 15/28

A01K 97/00

(21)Application number : 07-322209

(71)Applicant : SHIMIZU:KK

(22)Date of filing : 15.11.1995

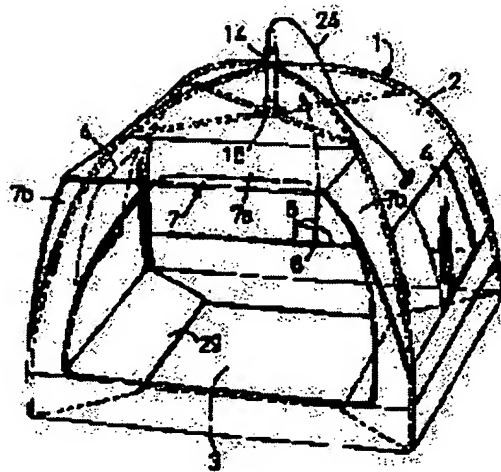
(72)Inventor : SHIMIZU HIROMI

(54) TENT FOR FISHING

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To operate and swing a fishing rod with no trouble in a sitting state in a tent and to make the tent durable for overworking outdoor under in the bad weather.

SOLUTION: A tent is formed in a mosquito net shape with aggregates 1 of an umbrella rib shape and a tent sheet 2 expanded in a dome shape with the rib materials 1. A large opening 3 to occupy the most part of a front surface of the sheet 2 is provided on the front surface of the tent sheet 2, a field of view of a user sitting in the tent is secured, and swinging operation of a fishing rod is facilitated. An eaves sheet 7 is hung over on an upper part of the opening 3 higher than the half of it, and rain is prevented from sweeping through the opening 3. Structural strength of the overall aggregates 1 is strengthened by improving strength by forming each of a main frame, a leg frame and an expanded frame constituting the aggregates 1 of a pair of rod materials arranged in parallel.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-144383

(43) 公開日 平成9年(1997)6月3日

(51) Int. CL ⁴	識別記号	片内整理番号	P I	技術表示箇所
E 0 4 H 15/28			E 0 4 H 15/28	
A 0 1 K 97/00			A 0 1 K 97/00	Z

審査請求 未請求 請求項の数 7 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平7-322209
(22) 出願日 平成7年(1995)11月15日

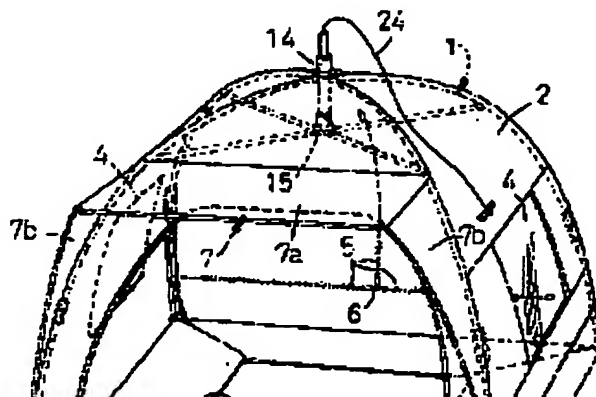
(71) 出願人 380013099
株式会社清水
大阪府和泉市尾井町55-2
(72) 発明者 清水 隆三
大阪府貝塚市地蔵堂53-5
(74) 代理人 弁理士 今村 元

(54) 【発明の名称】 釣用テント

(57) 【要約】

【目的】 テント内に座った状態で釣竿を支障なく振り操作でき、悪天候下での野外での酷使に耐える釣用テントを提供する。

【解決手段】 傘骨状の骨材1と、骨材1でドーム状に展開されるテントシート2とで、テントをはえ蚊帳状に形成する。テントシート2の前面に、シート前面の大半を占める大きな開口3を設け、テント内に座った使用者の視界を確保し、さらに釣竿の振り操作を容易化する。開口3の過半上部に底シート7を張り出し、雨が開口3か



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 傘骨状に展開ないしは折りたたみ収縮される骨材1と、骨材1でドーム状に展開されるテントシート2からなり、

骨材1は、上端が上ろくろ14に枢着された複数の主桙11と、主桙11の下端にヒンジ16を介して反転屈折可能に連結した脚桙12と、一端が下ろくろ15に枢着され、他端が主桙11の中途部に枢着してある展開桙13とからなり、下ろくろ15の上部に、展開状態において上ろくろ14を上下に持運する支軸22と、一端が支軸22に接続されて、他端が上ろくろ14を介してテントシート2の外面向導出された展開紐24を有し、上ろくろ14の上部にガイド筒19と係合して、骨材1の展開状態を維持する爪25が支軸22に出没可能に設けられており、

テントシート2の前面に、視界を確保し釣竿を振り操作するための開口3がシート前面の大半を占める状態で大きく開口され、開口3の過半上部に沿って底シート7が張り出してあり、

主桙11と脚桙12と展開桙13のそれぞれが、平行に配置した複数の桙材30と、各桙材30の少なくとも両端に固定したセパレータ31とで形成してある釣用テント、

【請求項2】 主桙11と脚桙12とが、セパレータ31を兼ねるヒンジ16を介して連結されており、脚桙12の下端にセパレータ31を兼ねる脚片17が装着してある請求項1記載の釣用テント、

【請求項3】 金属樑材で形成した2個の桙材30を平行に配置して、主桙11と脚桙12と展開桙13のそれぞれが形成してある請求項1または2記載の釣用テント、

【請求項4】 桙材30が軽金属製の管材で形成してある請求項1または2記載の釣用テント、

【請求項5】 骨材1が4個の主桙11、脚桙12、展開桙13で形成され、展開状態におけるテントの底面形状が四角形状になっており、テントシート2の四周面に連続して、前後、左右の底シート29a、29b、29c、29dが設けられ、これら底シート29a、29b、29c、29dで四角棒状のテント底面29が形成してある請求項1、2、3または4記載の釣用テント、

(2)

特開平9-144383

2

全体を覆うドアシートが、テントシート2にファスナーで着脱可能に装着してある請求項5または6記載の釣用テント、

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、野池や釣堀等において雨や風等を避けながら釣りを行うのに好適な釣用テントに関する、

【0002】

10 【従来の技術】この発明の釣用テントは、はえ蚊帳状に構成するが、この種のテントは例えば登録実用新案第3000657号公報に公知である。そこでは、傘骨状の骨材と、骨材で展開されるシートでテントを七角錐状に構成している。シートの周面一個所には、スライドファスナーで開閉できる出入口が設けてある、

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記の従来テントは、雨や風を避けるのに不足はないが、テント内に座った状態で釣竿を取扱うのには適さない。第1に、七個の骨材でシートを展開するので、出入口の左右幅寸法を大きく採ることができず、釣竿を操作できる範囲が狭い角度範囲に限定され、テント内からの視界も狭くなる。また、釣竿を十分に振り操作するには、出入口をテント上部まで開口させる必要があるが、そうすると出入口から雨が降り込みやすくなる。テント全体が錐形状になっているからである、

【0004】テントを展開したとき、全体が半開状の傘を地面に立てた状態になっていて、自重でその状態を維持するので、強風時に傾倒しやすい。はえ蚊帳の場合には、骨材をアーチ形に弾性変形させ、その変形応力を利用して保形力を発揮させるが、上記の簡易テントは、親骨および子骨を単に直線状に伸長して展開状態を維持するので、骨材がたわみ変形しやすく、十分な構造強度が得られにくい不利もある。こうしたひ弱な骨材でシートをびんと展開させるのは極めて困難となる。親骨や子骨を太形化して構造強度を向上することは容易であるが、そうすると骨材の重量が増加し、折りたたみ状態において嵩張ることを避けられない、

【0005】この発明の目的は、雨や風を避けることができ、しかも釣竿を容易に操作できる魚釣りに適したテ

(3)

特開平9-144383

3

4

は、傘骨状に展開ないしは折りたたみ収縮される骨材1と、骨材1でドーム状に展開されるテントシート2からなる。骨材1は、上端が上ろくろ14に枢着された複数個の主枠11と、主枠11の下端にヒンジ16を介して反転屈折可能に連結した脚枠12と、一端が下ろくろ15に枢着され、他端が主枠11の中途部に枢着してある展開枠13とからなる。下ろくろ15の上部に、展開状態において上ろくろ14を上下に挿通する支軸22と、一端が支軸22に接続されて、他端が上ろくろ14を介してテントシート2の外周へ導出された展開紐24を有する。上ろくろ14の上部のガイド筒19と併合して、骨材1の展開状態を維持する爪25を支軸22に出没可能に設ける。テントシート2の前面に、視界を確保し釣竿を振り操作するための開口3をシート前面の大半を占める状態で大きく開口し、開口3の過半上部に沿って底シート7を張り出す。主枠11と脚枠12と展開枠13のそれぞれを平行に配置した複数本の枠材30と、各枠材30の少なくとも両端に固定したセパレータ31とで形成する。

【0007】具体的には、主枠11と脚枠12を、セパレータ31を兼ねるヒンジ16を介して連結し、脚枠12の下端にセパレータ31を兼ねる脚片17を装着する。金属板材で形成した2個の枠材30を平行に配置して、主枠11と脚枠12と展開枠13のそれぞれを形成する。枠材30を軽金属製の管材で形成する。

【0008】更に具体的には、骨材1を4個の主枠11、脚枠12、展開枠13で形成し、展開状態におけるテントの底面形状が四角形状になる場合に、テントシート2の四周面に連続して、前後、左右の底シート29a、29b、29c、29dを設け、これら底シート29a、29b、29c、29dで四角枠状のテント底面29を形成する。

【0009】底シート7は、開口3の上縁に沿ってほぼ水平に張り出した上部シート7aと、上部シート7aの左右端に連続する左右一対の側部シート7b、7bで形成する。上部シート7aの張り出し縁とテントシート2との間に、上部シート7aの張り出し形状を維持する保形枠8を設ける。

【0010】テントシート2の後面にスライドファスナー5で開閉される出入口6を設け、テントシート2の方

ための開口3を設け、左右側面に透明シートで覆われた窓4を設け、シート後面にスライドファスナー5で開閉される出入口6を設ける。開口3はシート前面の大半を占める状態で大きく開口して、釣竿の操作範囲を十分に確保する。この実施例では、テントシートの前面底縁左右寸法を130cm、上下高さ寸法を120cmとするとき、開口3の底縁寸法90cmとし、上下寸法を85cmとした。スライドファスナー5は逆T字状に設ける【0012】上記のように、テントシート2の前面に大きな開口3を設けると、そこから雨が降り込む。これを避けるために、開口3の過半上部に沿って底シート7を設ける。底シート7は、開口3の上縁に沿ってほぼ水平に張り出した上部シート7aと、上部シート7aの左右端に連続する左右一対の側部シート7bとからなり、図5に示すように両シート7a、7bの隣接縁の内部に配置した保形枠8で、上部シート7aの張り出し形状を維持する。保形枠8は管材からなり、その一端を上部シート7aに設けた受部9aに差し込み固定し、他端をテントシート2と上部シート7aおよび側部シート7bの三者の集約隅部に設けた受部9bに当てがって装着する。

【0013】図1および図3において、骨材1は、それぞれ4個ずつ設けられる主枠11、脚枠12、および展開枠13の三者からなり、これらの枠材を上ろくろ14と下ろくろ15に連結して傘骨状に形成する。詳しくは、主枠11の上端を上ろくろ14に相對揺動自在に枢着し、展開枠13の一端を下ろくろ15に相對揺動自在に枢着し、他端を主枠11の中途部に相對揺動自在に枢着する。さらに、図4に示すように、主枠11と脚枠12とをヒンジ16で連結し、脚枠12を主枠11に対して反転屈折できるようにする。折りたたみ操作時の骨材1の長手寸法を小さくするためである。ヒンジ16は平扁番状に形成してあり、一対のヒンジ板16a、16aが厚み方向へ隣接する折りたたみ姿勢と、両ヒンジ板16a、16aが一枚の板状に連続する展開姿勢との間でのみ屈折できる。16bはヒンジピンである。脚枠12の下端には硬質ゴム、あるいはプラスチック製の脚片17が装着してある。

【0014】図3において、上ろくろ14および下ろくろ15は、それぞれ周知の傘用ろくろと同じ基本構造を採る。与るのは、上ろくろ14において、その中央ト下

5

を連結する。

【0015】上記のように、構成した骨材1は、図1に示すように、支軸22が上ろくろ14を挿通し、展開枠13がほぼ水平に拡開した展開姿勢と、主枠11と展開枠13がろくろ中心軸の近くに折りたたまれ、脚枠12が主枠11の外面に沿って折り返えされた折りたたみ姿勢とに拡張できる。展開姿勢において、主枠11および脚枠12は、展開枠13の押圧力を受けて大きく広がるが、その動きはテントシート2によって規制される。結果、両枠11、12はそれぞれ弾性変形して放物線状に湾曲する。このように弾性変形した状態の主枠11および脚枠12は、大きな変形応力を発揮している。外力に対する抵抗力を増す。とくに、骨材1の全体を内方へ押し潰すような外力に対して大きな抵抗力を発揮する。

【0016】この発明では、主枠11、脚枠12、展開枠13のそれぞれを、平行に配置した複数の棒材30で形成して、展開状態における骨材1の構造強度をさらに向上できるようにした。詳しくは、図4に示すように、上記の各枠11、12、13を、平行に配置した2個の棒材30と、枠材30どうしを接離不能に固定するセパレータ31とで形成して、棒材自体の重量増加を避けながら、その曲げ強度や座屈強度などの機械的強度を増強する。セパレータ31は、一対の棒材30を接離不能に固定保持するために設けられており、枠材30の少なくとも両端に配置する。より好ましくは、棒材30の長手方向に沿って一定間隔おきに配置して、枠体のねじれを阻止する。主枠11の上端、および展開枠13の両端には、偏平な連結部28を設け、その面壁に連結穴を通設する。

【0017】枠材30は、カーボン繊維で強化した複合プラスチック製材で形成する。その直径寸法は5～6mmとする。場合によっては、銅線、ステンレス線、ばね線材、チタン線材などの強靱な金属線材で形成できる。必要があれば、小径の銅製管材やアルミニウム合金やチタン合金などの軽金属製の管材で形成することができる。セパレータ31は、プラスチック成形品や金属板を素材とするプレス成形品で形成し、一対の棒材30に対して圧嵌固定し、あるいは圧嵌装着したうえで接着固定する。プレス成形品でセパレータ31を形成する場合に

(4)

特開平9-144383

5

る。図6に示すようにテント底面29は、テントシート2の四辺面に連続する前後の底シート29a、29b、および左右の底シート29c、29dの四者で形成し、各シート29a～29dのそれぞれを面ファスナー35で分離可能に接続する。

【0019】四角枠状に形成したテント底面29は、開口3の下縁側から降り込んだ雨を容易に排水できる点でも役立ち、さらに、展張状態において前記の釣道具をテント底面29上に設置して、突風等によるテントの傾倒を防止するのにも役立つ。なお、テントを折りたたんで撤去する場合には、面ファスナ30を解離して、各シート29a～29dを分離しておく。

【0020】上記の実施例以外に、ガイド19の係合溝21は省略できる。この場合には、爪25をガイド筒19の上端に接当係合して、テントの展張状態を維持する。保形枠8はコ字枠状に形成できる。主枠11、脚枠12、展開枠13は、2個以上の棒材30を一対にして構成することができ、この場合には対を為す棒材30の断面積や断面形状を大小に変異して、組み合わせ使用できる。釣りを中断する場合や、テント内で仮眠するような場合に備えて、開口3を完全に塞ぐことができる。開口3と同形のドアシートを用意しておき、これを着脱式の務歯を備えたスライドファスナーで開口3に装着するのである。

【0021】骨材1をワンタッチで展開し、あるいは折りたたみ収納できるようにしたうえで、その主枠11、脚枠12、展開枠13のそれぞれを複数の棒材30で形成し、棒材の重量増加を避けながら、その機械的強度を向上し、展開状態における骨材1の構造強度を増強するので、従来のテントに比べて耐風強度および耐久性を向上でき、悪天候下での野外の酷使に十分に耐えられることが可能な、実用性に優れた釣用テントが得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】テント用骨材の概略正面図である。

【図2】釣用テントの外観斜視図である。

【図3】ろくろと骨材の連結構造を示す縦断面図である。

【図4】骨材の斜視図である。

【図5】テントの使用状態を示す断面図である。

【図6】テントの底部構造を示す横断面図である。

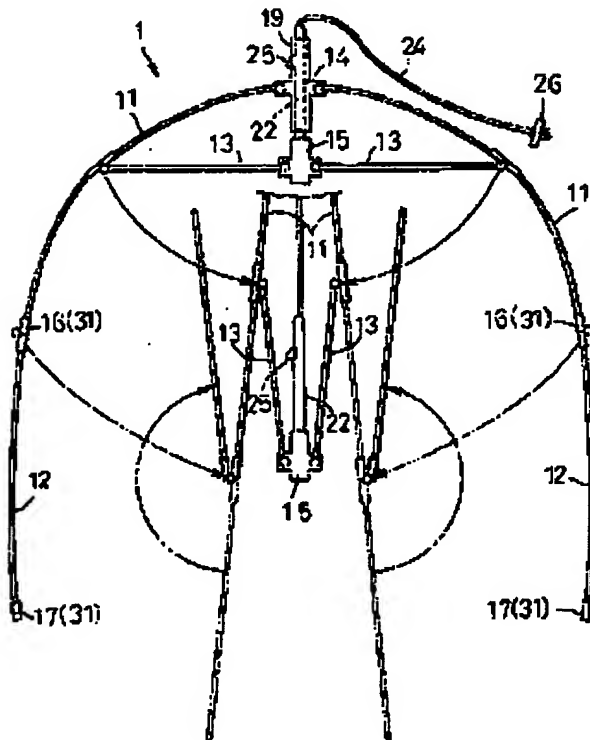
(5)

特開平9-144383

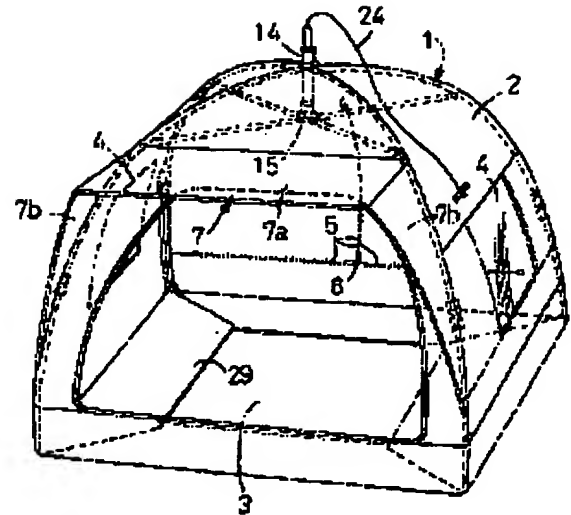
7
.....爪、29.....テント底面、30.....棒材、31
.....セパレータ、7a.....上部シート、7b.....
側部シート、29a.....底シート、29b.....*

8
*底シート、29c.....底シート、29d.....底
シート。

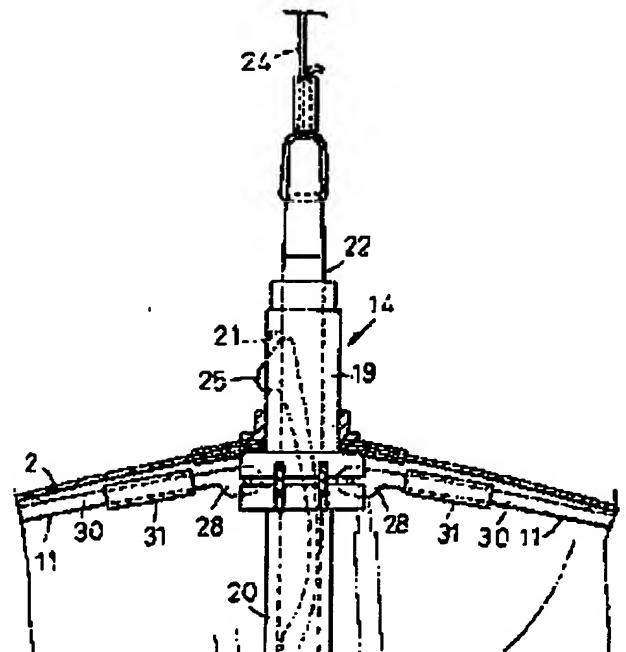
【図1】



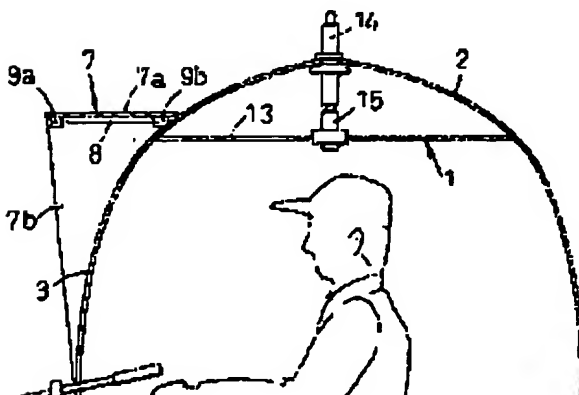
【図2】



【図3】



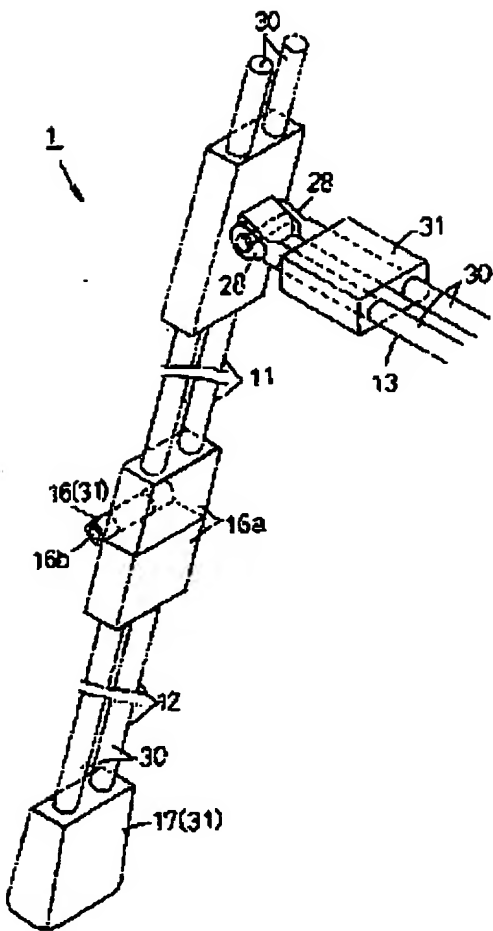
【図5】



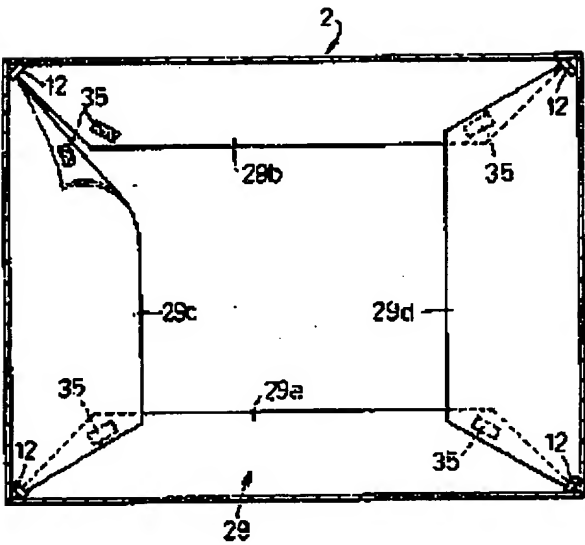
(5)

特開平9-144383

【図4】



【図6】



【図7】

